

君ならできる！君ならなれる！ 君も夢を実現しよう！

本学卒業生それぞれの歩み
2~14頁はすべて本学経済学部卒業生です。

- 公認会計士・税理士 野村文雄
- 税理士 金井博基
- 税理士資格取得中 鈴木佳紀
- 不動産鑑定士 吉門慶良
- 不動産鑑定士 石田 寛
- 京都大学大学院修了 門 立升

君の夢を実現しよう

野村文雄

公認会計士・税理士
(1986年卒業)

私は、高崎経済大学時代には経済学部で主に、財務会計を中心に勉強していた。当時から税理士・公認会計士になり、ゆくゆくは独立開業しようと考えていた。なぜ公認会計士を目指したのかを振り返ってみると、自分がサラリーマンには向いていないのではないかと、とか、組織の歯車として一生を終えるのは我慢ならない、とか、少しは経済的にも恵まれるのではないかと、といった漠然とした理由であったように思う。

漠然とした理由であっても、不思議なことに努力は継続できるもので、私は大学時代では山浦教授のゼミで財務会計論に熱中し、卒業後には横浜国立大学の大学院で(当時は高崎経済大学に大学院がなかったが、現在は博士課程も含めて存在している)財務会計の研究を継続し、大学院修了の年に公認会計士の国家試験に合格できた。税理士の国家試験はそれより少し早い時点で合格できていたがやはり公認会計士試験は難関であったと思う。途中、何度か挫折

高崎経済大学を卒業して早20年の歳月が流れようとしている。振り返ってみると、無我夢中で駆け抜けてきたという以外に適当な表現が見つからない。だからここで、自分が大学入りたての諸君に「君の夢を実現しよう」などといった大それたテーマを云々できる人間なのかいささか疑問ではあるが、あえて挑戦してみようと思う。

監査法人勤務を10年間続けた後、監査法人をやめ独立に踏切った。独立の準備をしていたある日、友人の紹介で弁護士から一緒に事務所をやらないかというさそいを受け、これも一つの縁であろうと考え、彼らと共に個人事務所を立ち上げたのである。一緒にいっても、基本的には個々独立に事務所運営をする形なので、学生時代から考えていた独立開業の夢はまず実現したわけである。

事務所立ち上げの後は、自分で仕事を開拓し、自分の責任で仕事をし、お客様から報酬をいただいで生きていかなければならない。なによりもまず生きていかなければならないのであって、仕事のえり好みをしている場合ではない状況である。会計事務所など東京には星の数ほど存在するのであって、自分のところに来てくれるお客さんには感謝しなければならぬし、まずお客さんの財産は自分の財産と同じような気持ちで守らなければならぬ。そうしたければ、お客さんは来てくれないし、来てくれない

すぐに自分のところから去ってしまってしまうのである。とかく独立開業は難しい。それでも、そうなりたくてやってきたことなのだから、弱音は吐けない。同じ会計士仲間でも、独立開業を断念しているものは少なからずいるのであって、それを思えば自分は思いどおりの人生を歩んで来ているわけであり、幸せなのかもしれない。ただ、「幸せだ」などと感慨に耽っている余裕はないのであって、この幸せがいつまでも続くようにかく前進するしかない。

私の「夢」は会計事務所の独立開業という、取り立てて壮大なものではなく、むしろ平凡なものであったように思う。しかし、この「夢」のおかげで、これまでの人生の方向感が狂うことなく前進し続けることができた。もし、途中で別のことを考えていたらこの程度の平凡な「夢」でも実現できなかったはずである。「夢」は人によってそれぞれ異なるものだと思うが、長い人生における羅針盤のようなものであり、それが一定していないと、せっかくの努力も目標達成にいたる前で中断し無意味になってしまうことになる。だから人生に「夢」は必要なのだろう。それも、できれば揺るぎのない「夢」がいい。一定しない「夢」は、努力を空回りさせるからだ。では、揺るぎのない「夢」をどうやって持つのか？ それを確認するために大学生活を使ったらいいのではないかと私は考える。大学時代は職業生活開始の直前期であり、しかも人生の中で最も自分の自由にできる時間が確保できるときでもある。壮大でなくても、自分の身の丈にあった揺るぎない「夢」さがしができるかどうか、大学受験を乗り越えればかなりの新入生諸君の課題なのだと思う。



FUMIO NOMURA

昭和61年高崎経済大学経済学部卒業、昭和63年横浜国立大学大学院経営学研究科修士課程修了後、同年10月公認会計士試験に合格し、青山監査法人を経て、平成10年独立し野村公認会計士事務所を開業する。